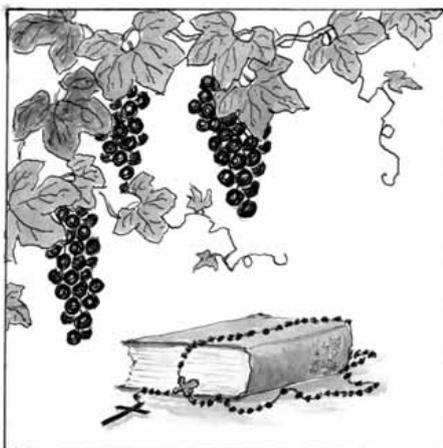


雷の子

カトリック町田教会
町田市中町 3-2-1
電話 042-722-4504
FAX 042-722-4512

いかずちの子

<http://www.machida-catholic.jp/>



祈り求めるものはすべて既に得られたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになる。また立って祈るとき、だれかに対して何か恨みに思うことがあれば、赦してあげなさい。

マルコ 11・24・25

花が咲く時

主任司祭 小池 亮太

八月の終わりに何度か続けて降った雨によつて、熱気を含んだ夏の空気が一気に入れ替わり、九月になると急に涼しくなりました。爽やかな風に吹かれて、植物たちも一息ついていっているように見えます。

しかし、夏の強い日差しと厳しい暑さ、そして、高い湿度を好む植物もあります。夏が始まった頃から、司祭館の窓の外に出されたままのシーグレイプもその一つです。メキシコ湾

や西インド諸島の海岸に自生している、名前から分かるように、ブドウのような実がなるこの植物は、夏の間に艶々した濃い緑色の丸い葉を次々に展開させて、すごい勢いで成長します。昨年の夏、フツと見るたびに、新しい葉が出ているのを見て、驚いたものでした。

しかし、今年は夏の盛りになつても、まったく新芽が動かず、新しい葉が出てこないのです。「冬の間の温度管理のせい

か？ 春先の水遣りのせいかな？」などと原因を考えながら、夏の間、シーグレイプを見守ってきました。すると、夏も終わるころとする頃、すべての新芽が一斉に動き始め、新しい葉が開くと、そこから房状の花芽が出てきたのです！

私たちが自身の人生や、自分と関わりのある人の上にも、このようなことが起きます。自分の持てる能力を尽くしてきたはずなのに、何一つ自分の望む成果が得られない時がありま

ました。ついに、神は、独り子をこの世に与えましたが、すべての人が「イエスはキリストだ」と信じ、神の愛を受け入れなければならぬ。神はこれからも、諦めることなく、聖霊を世界と人に与え続けるでしょう。なぜなら、司祭館のシーグレイプに起きたように、ある時、突然、人と世界にこれまで無かったような変化が起きることを知っているからです。

福音とは慈しみを示すこと

運営委員 加瀬 弘子

神がそうしているならば、私たちも「何をしても変わるはずがない」と思ったとしても、できる限りのことをするべきでしょう。また、良くないことが

今までのように、ただ、仲よく楽しい、善意に満ちた共同体を目標にしている良いのかと、疑問を持つのは間違いないのでしょうか？

教会の経理業務が東京教区のマニュアルに沿って行われ、期末には決算報告が教会の信徒総会と東京教区に対して行われます。収支処理業務は内容別に別々の担当者によって行われます。業務の進捗と台帳確認のために、財務委員会が毎月第二日曜日の第二ミサ後に主任司祭同席で行われます。また、財務委員会は、支出の規模を大きく左右する建設・営繕費の用途を見極めるために毎月行われる施設管理委員会に参加しています。年間予算の立案は財務委員会で行った後、運営委員会で審理して信徒総会で承認されたうえで成立しています。

東京教区の信徒数はここ10年間で約1万人増加していますが、献金はやや減少しているそうです。町田教会も傾向としては同じように年間の献金総額は年を追って減少傾向となっています。これは、今まで頑張ってきた先輩が年金生活者となり収入減となる場合と、他界されたことにより不在になることによるものと思われ、世代交代が徐々に進行していることは事実で、先輩に続く次の世代の方々と新しく来られた方々が今まで以上に教会への経済面を含み心配りを行ってくださるよう強く期待する次第です。

教会運営面から財務を見た場合、現時点で急を要する深刻な問題はありませんが、今年2月の信徒総会の中で施設管理委員会から既に説明がありました。聖堂築年数の10年以上経過に伴い建物・設備の修理・更新を数年計画で実施することとなり、多額の支出が予想されます。従って、教会が未来に向けて持続発展するうえで、引き続き月定献金と建設・営繕積立金は必要不可欠です。なお、月定献金の手続き方法が不明の方は、教会受付担当の方へお問い合わせください。

悩み、飛び乗った黙想会

佐々木 大輔

去る8月2日にウエルカムテーブル主催の黙想会が、汚れなきマリア修道院にて、コンゴ共和国出身のオノレ・カブンディ神父の指導のもとに行われました。「常識を超える神の愛、ゆるすと受け入れること」をテーマとして、ルカ福音書15章11節からの「放蕩息子」のたとえを題材に、オノレ神父は温かく力強くまた献身的な指導を我々にして下さいました。

財産の生前分与は当時の考え方からすれば、父親を死んだも同然と見なすこと、それ

を父親は何も言わずに受け入れていたことなど知識の面での指導から、コンゴ共和国という遠い国から来た神父の貴重な体験談、どんな不安な時でもイエス様が共にいて下さることを、飛行機の隣の席がずっと空席であったことから気づいた話など、情緒面での指導まで、ごく丁寧にして下さいました。

グループに分かれての分かち合いでは、時間の節目ごとに優しい目で声をかけて下さり、たゆまず黙想できるように助け続けて下さいました。

ミサ後のお茶会では、こんなにシャイな方であったかと驚かされました。精霊の働きに満たされた豊かな時間を過ごせたのが、1ヶ月以上経た今も思い出されます。

最も印象深かった話は、オノレ神父が司祭の道を選んだ



時のもの。コンゴでは子供が旅立つ時、父親が祝福を授けるそうですが、オノレ神父を迎えに来た車は、オノレ神父が一人で家にいる時に来て、迎えの神父は「今すぐこの車に乗らないなら、貴方は神父にはなれません」と言ったそうです。悩み、飛び乗って、そうして我々のところまで来て下さった神父。我々も父と子と聖霊を信頼して、日々悩み飛び乗るように生きていきたいものです。

山谷支援グループ活動中止について

鈴野 将

今から十二年前、長い間勤めた会社を定年退職するにあたり、健康に恵まれて元気な間は何か続けられそうなボランティアがあればと思っておりましたら、長年活動されておられる方からお誘いを受けました。フランススコ会の中谷神父様主催の炊き出しグループが、新たに「山谷夜回りの会」として開始したところに参加させていただく事になりました。活動する所が隅田川添いと少し遠く感じましたが、次第に親しく会話が出来るようになり、おむすびや日用品をお配りしながらいろいろな場面に遭遇しました。お花を育てている方が四つ

葉のクローバをポランティアの方達に下さったり、ある時は野良猫に餌をやりながら「今日はこの猫オレよりおいしい物食べているんだ」と刺身をあげているのにはビックリしました。次回はスポンが欲しいとか、長袖のシャツが欲しいと要望があり、待たれているのだと思うと小さな働きではあっても続けられて良かったと思う反面、一方的に援助を続けていると自分で立ち上ろうとする活力をそぐのではないかと、自立を促す難しさを痛感致しました。

大震災後、一時的に瓦礫の撤去などで仕事があったようですが、また商店街近辺では増え始めている状況です。その中、一番必要とされる栄養のある食べ物「おにぎり」だと思つと心苦しいのですが、この度、運搬係の高齢化、就職、転居、体力的な問題等の理由から人数が激減し、協議の結果、中止に至りました。

長い間活動を支えていただいた方々から始めた頃からの貴重なお話を伺い、祈りと共に心を込めたおむすびをお配りできた幸せと感謝の気持ちです。

長い間、お祈りとご支援、ご協力ありがとうございました。

仮設住宅を訪ねて

町田教会被災地支援センター
立木 欣吾

今回は第5ブロックの喜多寿子さんが、今年8月に仮設住宅を訪問した時の報告です。喜多さんが福島県南相馬市にある仮設住宅を訪ねるのは震災翌年から3回目。毎年、東京カリタスの家のスタッフと、一緒に支援している他教会のメンバー（西千葉、三軒茶屋、麹町）と行かれるとか。今年も東京教区の小宇佐神父様が運転、他2名と福島野菜畑の柳沼さんも加わり5名でした。仮設住宅は南相馬市鹿島区にあり、原発に近い小高区の方が多く住んでいます。ここの仮設住宅は148戸ありますが、ほとんど空室はありません。

夕食は、泊まった農家民宿で、自治会長さんご一家と楽しく一緒にしました。翌日は仮設住宅を訪ね、一年ぶりの再会。手料理をいただきながら、話をうかがいました。

もとの家は、家の周りを除染しても、雨が降るとすぐ被曝線量が上がります。立ち入りできない時に入っていたイノシシや豚が、今は日中帰られるようになって、代わりにネズミが大量発生しているのだとか。

家に帰還できるのは平成28年の4月の予定。まだまだ除染は進んでいないし、オリンピックがあるから遅れるにきまつていると話されています。同じ仮設でも、住んでいた場所や、家族の人数など条件で賠償金額が違い、気まずい関係になることがあります。賠償金をもらっても、使い切つたり、日中から飲酒やパチンコ通いの住民も少なくないそうです。

帰還しても荒れ放題の家をリフォームする程のお金はありません。今は賠償金で何とか生活できていますが（前は米や、野菜は買ったことがなかったが、今はすべて買わなければならない）、避難解除になると賠償金はなくなり、国民年金で月4、5万円の生活になります。商店や病院もなくなり、若い家族は帰還しないので、高齢者が一人家に帰るのも不安ばかりが募ります。仮設住宅は応急で作られているので、冬は寒く、梅雨時はカビがひどく、夏はサウナ。ここにいても大変だけど、帰っても大変だぞ？」と。昨年の訪問では、皆さんが、1日も早く家に帰りたいと口々に言われていましたが、今年は何となく、仕方ないと諦めの雰囲気を感じました。喜多さんは最後に次のよう

に締めくくってくれました。原発事故は環境や生活の破壊だけでなく、家族や人間関係の分断など大変な苦痛をもたらしたことを今回も痛感しました。そんな中でも仮設の方々は助け合い、独居のお年寄りを温かく見守っています。「次はいつ来るんだ、早く来ないとばあちゃん、死んじゃまうぞ」を忘れず、また近いうちに訪ねたいと思います。

犠牲献金 中高生会

8月3日 10,540円
(ベロニカ苑へ)
9月7日 10,809円
(広島土砂災害支援へ)

夏の子供たち



夏期学校(8月1日~2日) 御岳山にて。参加小学生8人、ロックガーデンへのハイキング、ゲーム大会、キャンドルサービス等で楽しんだ。

中高生会錬成会

8月23日、24日、町田教会をベースに、参加中高生2人、雨もよいの空を吹き飛ばしてパーベキユー、富士急ハイランドを満喫。



私の戦争体験(8月3日) 日本の敗戦を受け、朝鮮から13人の孤児を連れて38度線を越え、日本にたどり着くまでの辛苦を語る中村登美枝さん。

信者動静
2014年7月~9月